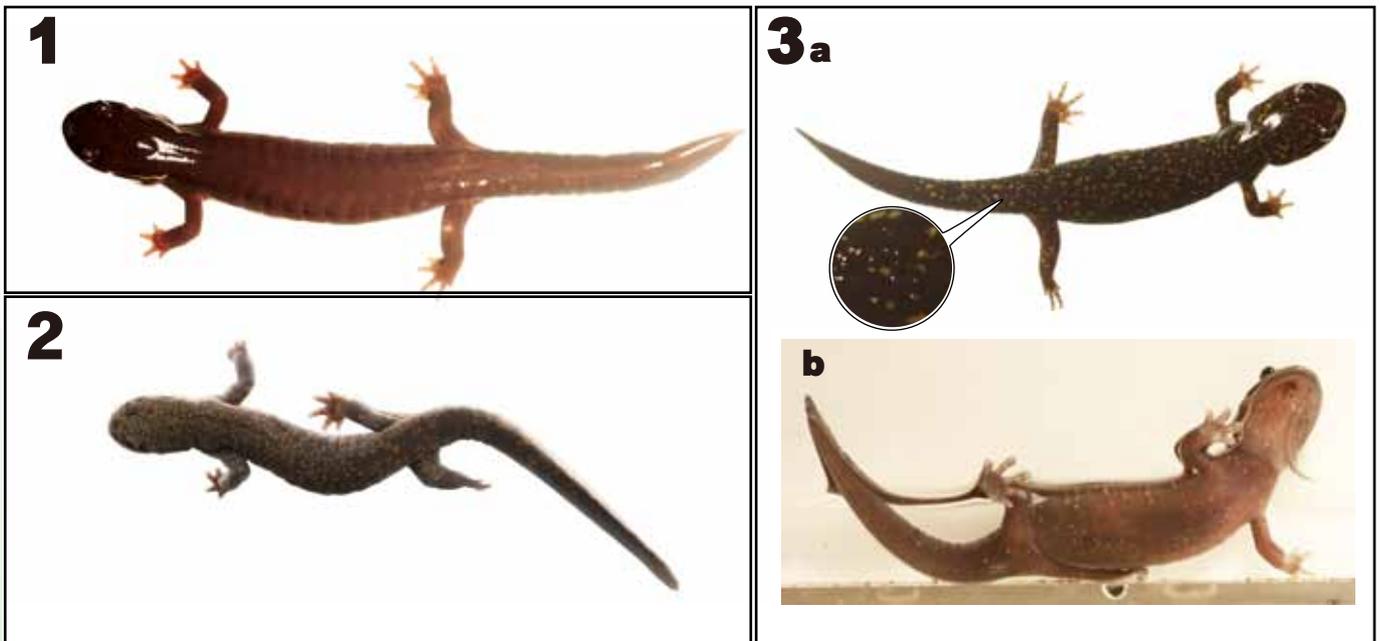


ヒダサンショウウオの色彩

佐々木彰央



1: 静岡県東部のヒダサンショウウオ, 2: 静岡県中部のヒダサンショウウオ
3: 白色斑を有するヒダサンショウウオ. a:背面, b:腹面

ヒダサンショウウオの基本的な説明は本誌第41号に掲載したので、ここではヒダサンショウウオの色彩に焦点を絞って紹介をしたいと思います。

ヒダサンショウウオの成体の背面には通常、黄色の斑紋がみられますが、個体によっては斑紋が一切みられません。この違いについては、日本がまだ戦時中の1943年に佐藤井岐雄氏が京都で得た123個体の色彩を基に行った研究があり、7つのタイプに分けられるとの結果を日本有尾類総説で報告しています。

それから66年後の2009年に松井正文氏らの研究グループが、日本各地より集めた282個体のヒダサンショウウオを基にして色彩と遺伝子から、関東型と関西型に分けられるとの研究結果を報告しています。これによると、関東型のヒダサンショウウオは黄色斑が少なく、関西型のものは黄色斑が多い傾向があり、東海地域を境にして分化が進んでいると記されています。

実際に静岡県で採集されるヒダサンショウウオは東部の個体で斑紋がない、もしくは少ない個体が多く（写真1）、西部や中部では色彩が鮮やかな個体が数多くみつかります（写真2）。

筆者は、佐藤拓也氏とともに、上述した色彩型には示されていない斑紋を有するヒダサンショウウオを静岡県東部でみつけることができました。このヒダサンショウウオには黄色の斑紋の他に白色の斑紋がみられる他（写真3a）、通常のヒダサンショウウオにはないとされる腹面にも白色斑が確認されました（写真3b）。白色斑が混じるヒダサンショウウオについての報告は唯一、1963年に出版された原色日本両生爬虫類図鑑の中で、中村健児氏と上野俊一氏により「斑紋の白い個体が非常に少なく、普通は不規則な細かい黄斑を散布している。また、腹面には一般に斑紋がない」と記述されています。しかし、これ以上の記述はなく、採集場所や特徴など詳細についてはふれられていませんでした。そのため、この変わったヒダサンショウウオについては日本両生類研究会の両生類誌No.26に詳細を掲載し、ヒダサンショウウオの変異の1例として詳細な報告することとしました。このように、ヒダサンショウウオ1種をとりあげても様々な変異がみられますが、このような変異の生じた理由は、まだわかりません。この理由を解明するために、今後もヒダサンショウウオが生息する環境などの調査を続けていくことが、必要だと考えています。